

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都

かなえるレター



K A N A E R U L E T T E R



今号の表紙

「和柄のティッシュケース(左)
小物立て(右)」



ご利用者

いつも、楽しく作品作りをさせていただいています。昔、購入したものの、病気をしてから手を付けられずにいたものが沢山ありますので、これからも前向きに頑張っていきたいです。

担当
療法士

完成した作品はご自身でお使いになられるだけでなく、ご家族・ご友人にプレゼントされることもあり、大変喜んで頂けるそうです。これからも心身ともに充実した生活を送っていただけるよう支援していきたいと思ひます。

ご利用者からの”投稿募集”



かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか？詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまでお問い合わせください。あなたの投稿をお待ちしています。

かなえるリハビリ訪問看護ステーション 都

検索

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション

〒550-0015
大阪市西区
南堀江1-16-15
名城ビル4階D号室

TEL 06-6531-3500
FAX 06-6531-3510

| ご利用者数 | (H29/8/17時点) |
|----------|----------------------------|
| 介護保険… | 1,049名 |
| 医療保険… | 434名 |
| その他 … | 11名 |
| 計 | 1,494名 (社員数121名) |

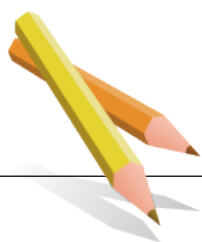
かなえるリハビリ
訪問看護ステーション都

〒604-8375
京都市中京区
西ノ京池ノ内町19-11
御池KSビル202号室

TEL 075-803-0536
FAX 075-803-0537

| ご利用者数 | (H29/8/17時点) |
|----------|-------------------------|
| 介護保険… | 279名 |
| 医療保険… | 51名 |
| その他 … | 0名 |
| 計 | 330名 (社員数25名) |

かなえる レポート report



43歳の高井様は、家業の酒屋を営まれていましたが、H20年10月に小脳出血を発症され、全身に不自由が残りました。気管切開や胃瘻をされながら、奥様とご自宅で生活をされています。

「持ち前のガッツ」で前向きに

高井様は、約9年前よりご自身で身体を動かすことが困難となりました。唾液を飲み込むことが上手くできず、また痰の量も多いため、吸引器での吸引を頻回に行い、外出のときは手動の吸引器を持ち、唾液を拭きとりながら移動されてきました。そういった状態に対し、顔や口の筋肉を動かす訓練や、唾液を飲み込むという訓練を継続して行っています。当初は、身をゆだねる事しかできませんでしたが、リハビリが進む中で状況を理解し、協力的な動作をすることができるようになりました。

「新たな目標を」

幼少から、野球とスキーをされてこられた高井様。

社会人になってからも、少年野球チームのコーチや、スキーのインストラクターの資格を修得をされるほどでした。持ち前のスポーツ精神で、意欲的に訓練を続けられ、今では唾液を飲み込むことや、吸引器を使わずにご自身で痰を吐くことが可能になってくれました。奥様は「外出時での吸引がほとんど無くなってきたので、主人と一緒に同じ景色をゆっくりと見られることが、とても嬉しく思います。」とおっしゃっています。退院時から、定期的に好きな映画を見に行かれています。以前は、場内で周りを気にされながら、大きな音に合わせながら、大きな音に合わせて吸引をされていました。一層映画を楽しめるようになられました。

「表情の変化」と「笑顔」

意識障害があるため、発話も難しく、表情の変化も読み取りにくい状況でした。しかし、1年ほど前より、お顔の筋肉の連動の動作がスムーズに繋り始め、少しずつ動かすことができるようになり、表情の変化が見られるようになりました。「気持ちに寄り添えてるか、思いを汲み取れているかと思う毎日でしたが、今では、視線を合わせて、まばたきで返事をしてくれたり、面白いことを言うと、すぐに笑顔を見せてくれたり、話しかけるとゆっくりでも、顔を向けてくれるようになりました。在宅を支えてく



(写真上)口腔と(写真下)呼吸のリハビリの様子

ださってる周囲のケアスタッフさんも解ってくださいるぐらい、表情をだせるようになっていました。」と奥様は喜んでおられます。リハビリの中でも、できたことに対して達成感を感じておられるような笑顔や、顔をしかめながらも頑張っ取り組まれる様子が見られてきています。そんな高井様の頑張りを言語聴覚士として今後も支援させていただきます。

(言語聴覚士 北川)

| | |
|----------|----------------|
| ▶H20.10月 | 小脳出血発症 |
| ▶H22.7月 | ご自宅へ退院 |
| ▶H27.8月 | 訪問による言語療法をスタート |
| ▶H28.1月 | 表情に変化・笑みが見られる |
| ▶H28.5月 | 安定した唾液嚥下が可能になる |

誤嚥性肺炎の予防



言語聴覚士
福沢 ひとみ

最近、テレビでもよく聞く“誤嚥性肺炎”をご存知ですか？誤嚥性肺炎とは、飲んだり食べたりするときに、口から食道へ入るべきものが気管から肺に入ることを言います。飲食物以外でも口腔内を清潔に保てていない場合に細菌を含んだ唾液などの分泌物や、一度飲み込んだものが逆流して胃内容物を誤嚥することもあります。

誤嚥の兆候

- ◆むせる ◆咳が出る ◆食後、疲れる
- ◆食事の時間が長くなった
- ◆のどに食べ物が引っかかる違和感
- ◆口の中に食べ物が溜まる
- ◆食欲の低下・体重の減少

左記の兆候が見られた場合は

**いち早く
医療機関へ受診**

誤嚥性肺炎の症状

- ・食事中むせる
- ・呼吸が苦しい
- ・食事後5～6時間後に高熱がでる
- ・痰の色が濃く、痰量が多くなった

誤嚥を予防するには…

①食事の形の工夫

硬いものが噛みにくく、飲み込みにくい場合は、柔らかい食べ物に変え、飲み込みやすい食材に変える工夫が必要です。また、飲み物でむせるときは、少しずつ飲んだり、とろみをつけます。

②姿勢の工夫

座って食べることで、またベッド上であれば角度をつけることが必要です。また、食後の逆流を防ぐために、食べたあと、約30分は座った姿勢での休憩が必要になります。

③口の中を清潔に保つ

食べ物が口の中に残ると、口の中に細菌が増え、誤嚥を起こしやすくなります。食後は歯や舌を磨き、うがいなどで口腔内を清潔に保つことで、誤嚥を予防することができます。

「性格は何歳になっても変えられる。」

中京区 80代女性 Aさま

戦前、学生だった私は欲しい物は言わなくても与えてもらえる環境で育ち、欲しいと自分から言えない内気で受け身な性格でした。戦争が始まり、人がいなくなってきたころ、10歳以上年齢の離れた妹が生まれました。母と幼い妹と3人で荷車で

引越しをしたりしているうちに、自分がしなければいけないという気持ちが強まり、性格も明るく、強く変わりました。生きていて楽しくなり、なんだか楽になりました。

性格は何歳になっても変えられるのよ。



かなえる★ジョナくん劇場

作者「ジョナ様」は先天性・進行性の障害を抱えながら漫画家を目指し活動されている24歳の青年です。当事業所からは看護師・理学療法士が訪問させて頂いております。



(今月の一言) エアコンのつもりがトイレットペーパーみたいになってしまいました。



かなえる
TOPIC

第2回かなえる勉強会 「リハビリテーションの 役割を学ぶ」

株式会社かなえるリンク
教育研修課 責任者 門田 淳志

平成29年8月20日(日)、
当社主催で第2回かなえ
る勉強会「リハビリテー
ションの役割を学ぶ」を開
催しました。

この勉強会は、社内外
問わず、医療・介護分野に
関わる専門職として、病
院・施設・在宅と様々な環
境で活躍する療法士がさ
らなる活躍の場を広げ社
会に貢献できるための一
助となりたいという思い
から、研鑽の場として企
画し、約100名のご参
加をいただきました。

1部では当社かなえる
リハビリ訪問看護ステー
ション所属の作業療法士
目良幸子から「地域での
緩和ケアについて」をテー

マに講義させていただき
ました。まず「緩和ケア」
は何かという説明があり、
苦痛の予防と緩和を行う
ことで、生活の質を改善す
るアプローチであるとい
うことを共有できました。
また、「緩和ケア」に対する
リハビリ職の役割として、
具体的に身体的・精神的・
社会的な苦痛などに対し
ての環境調整やコミュニ
ケーション、リハビリに関
わることにより「どのよう
に死を迎えるか」ではなく
「どのように自分らしく
生きるかを最後まで支え
ること」の大切さを考える
内容でした。近年、緩和ケ
アが注目されるようにな
っており、参加者もその

役割の大切さを学ぶ良い
機会となりました。

2部では、森ノ宮医療
大学 保健医療学部 理
学療法学科 教授の堀竜
次先生に「身体所見 バイ
タルサインから見た呼吸・
循環器疾患の病態把握」
をテーマに、ご講義いた
だきました。呼吸器疾患と
は主に気管や肺等の呼吸
器に起こる疾患で、循環
器疾患とは心臓や血管等
の循環器が関わる疾患と
なります。講義では、病態
を把握するポイントとし
て、血圧や脈拍などの測
定数値が正常値であって
も健康とは限らず、身体
所見を見ることの重要性
とその把握の方法につい
てお話いただきました。た
とえば、測定数値に異常
がなくても、呼吸の乱れや
唇の色味、むくみの状態
や脈の拍動の様子など併
せて観察することで得た
情報から私たちの対応方

法も変えなければいけな
いということに気がつきま
す。リハビリ職として測定
数値と身体所見を統合し
て病態を捉える事の重要
性を深く学びました。
今後も弊社では社内外
において、勉強会の定期開
催により、リハビリ職の知
識と技術の向上、社会貢
献に繋がる取り組みを
行っていく予定です。



森ノ宮医療大学 保健医療学部
理学療法学科 教授 堀 竜次 先生



かなえるリハビリ訪問看護ステーション
作業療法士 目良 幸子

まだ残暑は残るものの、少しずつ秋の気配を感じるようになりました。今回、かなえる人生訓にてご紹介したAさま。「自分を変えるのに年齢は関係ない」というお話に、とても感銘を受けました。わたしたちは皆さまとの何気ないお話の中で、教わること、気づかせて頂くことがたくさんあります。当かなえるレターでは、これからもそんな皆さまのお話を紹介していければと思っています。

